

◇令和6年／2024年1月号 第107号◇

會



フジサンケイグループ

報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高橋照弘理事長 揮毫

「辰年」の幕開けです。「辰」は十二支の第五番目。中国の「漢書」などによれば、「振」（振るう、整うの意）の字が由来で、万物が振動し、力がみなぎる様を表しています。権力の象徴「竜（龍）」の意味も。さて、本名・李振藩。幼少時の芸名は李小龍。これは香港のアクション・スター、ブルース・リーのお話。彼は米ハリウッド進出作にして遺作ともなった主演映画「燃えよドラゴン」（1973年）の英語タイトルを『Enter the Dragon』（ドラゴン登場の意）で押し切りました。世界でのし上がってやろう。彼の志の現れでした。皆さんも素敵な夢が実現しますように。



産経新聞社
事業本部長
三笠 博志

「未来」への分岐点

新年明けましておめでとうございます。

旧年中に皆様から賜った多大なご支援に心より感謝申し上げます。

私自身、昨年7月に事業本部長に就任し、皆様から個人的にも様々なご教示をいただきました。日本文化にとっての書道、産経新聞社にとっての産経国際書会が、いかにかけがえないものであるかを改めて学ばせていただいたことを糧に今年の仕事にあたりたいと考えています。

昨年第40回を迎えた産経国際書展の記念行事は今年4月、上野の森美術館で開催する大作展「未来に向かう産経国際書会—大作を中心に—」でクライマックスを迎えます。この会報が届くころ、追い込みにかかっている先生方もいらっしゃるかもしれません。記念行事の挿尾を飾るにふさわしい大作が並ぶことを今から期待し、そうなると確信しています。

大作展のタイトル通り、40年の節目を過ぎた産経国際書会は今年、「未来」にどう向かうかが問われる分岐点の年になるかと思えます。鍵は、時代を超えて継がれてきた書の魅力、価値を多くの人にいかに分かりやすく伝えられるか、裾野をもっと広げられるか、ということでしょう。その先に書会の益々の発展がみえてくると考えています。

そうした「未来」に向けて、産経新聞社は書会の皆様と手を携えて、全力で取り組んでまいります。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



産経国際書会
理事長
高橋 照弘

上昇機運に乗じて躍進を

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には新年を迎えられ、新たな目標に向けて研鑽を積み、自己を向上・発展させるべく誓いをたてられたことと思います。

本年は十二支の5番目に当たる辰年であります。辰は五行の木で、方位は東南東に配され、時候は春に配分されています。色は青となり、青春の語源となっています。春は草木が芽吹き、生き活きと成長していきます。南は陰陽の陽。総じて辰年は伸長していく気を持ち、目標に近づくことのできる期待が大きく膨らみます。

昨年8月、産経国際書会は東京・上野の東京都美術館で40回展記念行事を行いました。

その記念展特別企画「産経国際書会40年—そのはじまりと歩み—」展では、創立時の先生や当時の作品を系統立てて陳列し、系譜を作り、産経国際書会の全容を明らかにして一般公開しました。

もう1つの記念展特別企画「田中鳳柳コレクション 中国 明・清の書画名品展」では、産経国際書会最高顧問、故・田中鳳柳先生所蔵の明清書画の清華を展示し、書の魅力、書の力を発信し、多くの人の心を動かししました。

本展、企画展は大好評、大成功に終了することができました。40回記念展での興盛を一過性のものとせず、これからどのように繋いでゆくのかが重要な課題です。

辰は龍に例えられています。龍は雲を呼び、天に力強く昇ります。産経国際書会もこれにあやかり上昇機運に乗じなければなりません。会員一人ひとりが「何ができるか」を考え、一致団結し、総力を持って産経国際書会の躍進のため頑張ってまいります。

世界のアート、作家集団を目指せ

最高顧問 齋藤香坡



令和6年新春を迎えられ、皆様方にはご健勝にて爽やかな元日を迎えられたこと、大慶に存じ上げます。本年もよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

さて、産経国際書展が40回展を迎えた昨年は、大きな企画展が無事に終了いたしました。開催の準備に注力された役員の皆さまにこの場より厚く御礼申し上げます。

昨今の世界情勢は、新型コロナ禍の猛威に始まり、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラム原理主義組織ハマスのイスラエル襲撃とその報復…と次々に見舞われ、惨害を引きずりながら、私たちは2024年を迎えることになりました。寒さに震えながら終息を待つ人々を思うと心に痛みを感じます。

そんな状況の下、書道界は今、胸を張って隆盛にあるとはいえませんが、何万点もの出品数を維持している書展もあります。その下支えをしている魅力とは何か。大いに賢察の余地もあるでしょう。そこで産経新聞社が

打った手は何か。書会は何ができるか。

書道界の飛躍を考えると、どうしても出品数の問題が大きく立ちのびてきます。仮に1人が作品2点を制作すれば、すぐに出品数は倍増するが、継続は難しく、結果的に飛躍の力とはならないでしょう。産経新聞社と書会には、賢策を考え、たたきあげてほしいと願っています。

また、書会は「国際」の2文字を掲げている以上、会員の一人ひとりが世界のアート(芸術)に伍するべく高い意識を持ちたい。

アートの世界はお習字ごとで終わる世界ではありません。書会は作家集団を目指すためにどう人材を活かせばいいのか。これも大きな課題でもあります。もっとも会員相互の親睦なくして大きな仕事は成立しません。こんなことを考えながら、皆さんの益々のご活躍を祈念申し上げます。

今を一生懸命生きる

最高顧問 山下海堂



地球は天の川という住所を記すとき、国、市、通りの名前を書くことがあります。太陽から約1億5000万km離れた生命が生存できる狭い領域にあります。家屋が多数の柱で支えられているように、世間は人々の力で支え合っている。

だから、お互いに力になったり、なられたり、他人から受け、また、他人のためになっている。他より受けることのみ多く、他のために捧げることが少ないと、運は開けてこない。幸せは難しい。

今不幸だと感じる人は努めて他人のためになるよう心がける。きっと人生が開けてくる。

昨今世間では終活という言葉を目にしますが、感謝や助け合い、慈しみといった心が生まれてくるはず。

金言として「誰にも見えないけれど心遣いは見える」がある。詩人、宮澤章二の言葉である。産経国際書会に出席して41回展、42回展に向けて言葉選びに苦慮している自分がいる。昔は楽しかった、美しかった…過去にこだわってはい心静かな境地に至ることはできない。未来はまだ現実になっていない。大切なことは今を一生懸命生きることと思い、日々を送っている。

関西展

関西展実行委員長
松井 玲月

会期 ● 令和5年8月30日(水)～9月3日(日) 会場 ● 京都市京セラ美術館

地方展では1番早い会期となる関西展。残暑が厳しい中、京都市京セラ美術館で開催されました。コロナ禍の影響がほとんど感じられず、天候にも恵まれ、2105人の入場者数を記録し、賑わいました。展示総数も426点で、昨年より若干増え、先生方のご努力の賜物と思えました。

嬉しいことですが、次年度は展示会場全体が使用可となりましたので、ジュニアも含めて、ゆったりとした展開ができますことを今から楽しみにしております。益々の出品点数の増加、作品の技量向上に対する取り組みに

期待がかかります。

さて、今回の関西展では、9月3日、4年ぶりに本格的な贈賞式、祝賀会をリーガロイヤルホテル京都で執り行うことができました。140人出席のもと、五嶋清・産経新聞社取締役大阪代表、三笠博志・事業本部長(産経国際書会会長代行)、伊藤富博・産経国際書会会長代行、また原田圭泉・同名誉顧問、高橋照弘・同理事長ほか、多数のご来賓のご出席をいただきました。

贈賞式では、72人の入選・入賞者に贈賞。代表して、第40回記念産経国際書展の「第40回記念賞」受賞者、田村廸子様が「喜びの言葉」を述べました。同展で最高賞「高円宮賞」に輝いた村田白葉先生への花束贈呈で無事終了しました。

祝賀会は、三笠様のお祝いの言葉と、原田先生の乾杯のご発声で宴に入り、出席者からは久しぶりの交流と皆様の笑顔に「楽しかった」との声が続々と聞こえてきました。

皆様方、関係各位に実行委員一同、感謝を申し上げます、報告と致します。



第40回記念賞に輝いた田村廸子さん(右)



受賞作品に見入る



嬉しい入選作品



賑わう会場風景

東北展

東北展実行委員長
松崎龍翠

会期●9月8日(金)～13日(水) 会場●せんだいメディアテーク

昨年の東北展では、東北地方の出品者が手掛けた作品のほか、「第40回記念産経国際書展」の最高賞「高円宮賞」、「内閣総理大臣賞」をはじめとする特別賞の受賞作品、産経国際書会幹部の作品の計219点が展示されました。

地元の最高賞「伊達政宗賞」に輝いた伊勢枝香氏など地元の受賞者の作品に関心も高く、多くの方々の参観をいただき、盛会裡に終えることができました。

また、今展も産経ジュニア展の223点の展示もあり、出品者と家族の来場で賑わいも顕著で、40回記念展がさらに意義深いものになったと思えました。

贈賞式では、ご来賓の伊達家18代ご当主、伊達泰宗様をはじめ、三笠博志・産経新聞社事業本部長(産経国際書会会長代行)、伊藤富博・産経国際書会会長代行、高橋照弘・同理事長からご挨拶をいただきました。式後、高橋理事長より「古典臨書について」のご講演をいただき、より意義深く大好評でした。

今年は3年ぶりに贈賞祝賀の宴を開催。山下海堂・同最高顧問の乾杯の音頭や、「内閣総理大臣賞」に輝いた岩浅写心先生のご挨拶など、出席者は終始和やかに楽しい一時を過ごすことができました。

最後に後援をいただきました東北6県、仙台放送に深謝し、また、実行委員の皆様のご尽力に謝意を表し、ご挨拶といたします。



伊達政宗賞受賞の伊勢枝香さん(右)



壁一面のジュニア作品

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
大庭 清峰

会期●9月26日(火)～10月1日(日) 会場●広島県立美術館地下ギャラリー

令和5年9月26日(火)から10月1日(日)、広島県立美術館地下ギャラリーに於いて、第40回記念産経国際書展瀬戸内展が開催されました。広々とした会場で、ご来場の皆様もゆったりと観覧できたことと思います。

今年は40回記念展ということで、松山に於いて四国展が開催される関係で展示スペースに余裕があり、産経ジュニア書道コンクールの上位作品が通常より多く展示され、学生・生徒の来場が多く賑やかな展覧になりました。

今後も可能な限りではありますが、より多くの方々に来場していただける瀬戸内展でありたいと思っております。

9月30日には、多くの来賓列席のもと授賞式・祝賀会が行われました。通常開催は四年ぶりでした。コロナウイルスに加えインフルエンザが流行していたこともあり、やや少ない参加者ではありましたが、受賞を称える側も称えられる側も安心して参加できる日が来る事を切に願っております。

瀬戸内展の開催にあたりまして、新聞社の皆様、書会の先生方、準備のために動いていただいたスタッフの皆さん、そして瀬戸内展関係の会員の皆様に心より感謝を申し上げます。



モンゴル国大使館賞を受賞した上村陽香さん(右)



瀬戸内在住作家の作品群



幹部作品

中部展

中部展実行委員長
村田白葉

会期●11月7日(火)～12日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

第40回記念中部展は、11月7日(火)から12日(日)まで愛知県美術館ギャラリーで開催されました。展示会場が限られたスペースでの展示となり、作品に対し、申し訳なく思っております。

6日(月)の搬入・展示作業日は、26度を上回る汗ばむ陽気でしたが、最終日は15度と肌寒い日となりました。ようやく秋らしくなった12日(日)には、昨年同様、名古屋ガーデンパレスにて、贈賞式・祝賀会を開催致しました。

産経新聞社より、三笠博志・事業本部長兼産経国際書会会長代行、伊藤富博・産経国際書会会長代行、高橋照弘・同理事長をはじめ、多く

のご来賓の皆さまのご出席をいただき、盛大に開催することができました。

大村秀章・愛知県知事もご公務の合間を縫って駆けつけてくださり、温かなご祝辞を賜り、「愛知県知事賞」の贈賞をしていただき、受賞者の喜びも大きくありがたく思っております。

今展開催にあたり、実行委員の先生方をはじめ、搬入、展示、会場受付、搬出、贈賞式、祝賀会の準備、運営など、多くの先生方のご協力をいただき、無事終了できましたこと、心より厚く御礼申し上げます。



産経国際書会会長賞の堀江龍舟さん(左)



大村秀章・愛知県知事と知事賞の深澤慶川さん(左)



メイン会場風景

四国展

四国展実行委員長
平岡雄峰

会期●11月29日(水)～12月3日(日) 会場●愛媛県美術館

第40回記念の地方展は初めて四国の地を踏み、11月29日～12月3日まで愛媛県美術館(松山市)で盛大に開催されました。会場には自由闊達で多彩な力作400点余りがずらり。全国巡回の作品、入賞作品、産経国際書会40年の歴史において四国・中国で書の発展に尽力された先達の作品、研修会とタイアップした松山市出身の書道家、三輪田米山の作品6点、四国在住ジュニアの作品などが花を添えました。

入場者は日を追うごとに増え、最終的には600人超と予想を上回る盛況ぶり。地元の書道家は「毎日展、読売展と違って自由でバラエティに富んだ作品、見応えがあります」と高く評価し、躍動感あふれるハイレベルな四国展の姿を内外に示すことができました。

12月2日は午前中に県美術館講堂で研修会、午後は場所を「ANAクラウンプラザホテル松山」に移して贈賞式が行われました。受賞

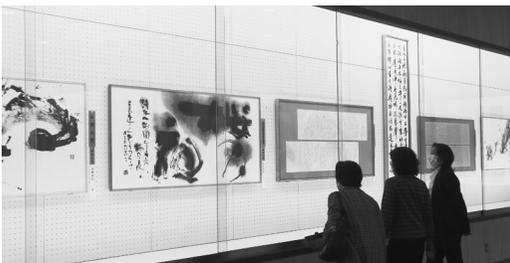
者27名ほか、新聞社・書会の幹部、全国から訪れた書家ら約100名が華やかなムードに酔いしれました。

続く祝賀会では、松山大学書道部が約6名の和紙に「奇跡」と揮毫。圧巻の書道パフォーマンスに大きな拍手が送られました。最終日3日はジュニア展贈賞式が県美術館で実施され、100人を超える参加者たちで賑わいました。

私たちは今回の四国初開催を足掛かりに、今後は四国内で指導者間の交流を一層活発化させ、出品増にもつなげたいと気持ちを新たにしました。関係者はもちろん、出品、参加してくださった先生方、皆様心から感謝を申し上げます。

最後に長年、四国展開催の実現を願い、昨年末95歳で亡くなられた宮崎春華先生に触れなければなりません。悲願はついに叶いました。先生には華々しい展示会場の様子を見てもら

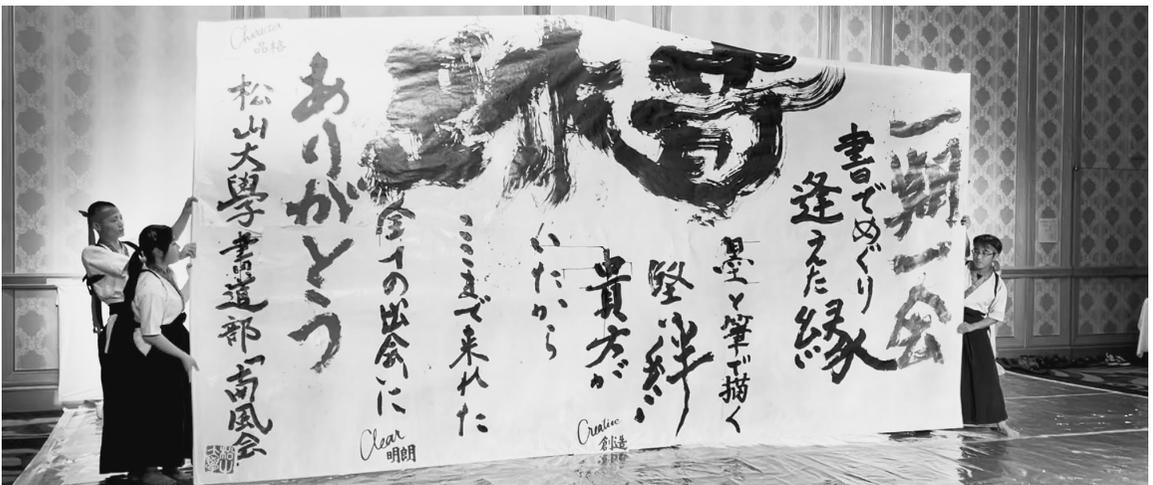
いたかったです。残念ではありますが、まずは初開催にこぎつけたことで供養となれば幸いです。



松山の方々もびっくり。個性的な作品が並ぶ



贈賞式であいさつする平岡雄峰・四国展実行委員長



松山大学書道部の部員たちが豪快なパフォーマンスを披露

四国研修会

研修部 勝田晃拓

～坊ちゃん列車休止も有意義 道後の書旅行、「美の宝庫」巡り～

毎年恒例の産経国際書会研修会。今年は特別企画「第40回記念四国展」(愛媛県松山市)に合わせて、松山ゆかりの書家、三輪田米山(みわだべいざん)について講演会を開催しました。

講師は、国語教育学の権威で、米山にも造詣が深い、愛媛大学名誉教授の三浦和尚先生。「三輪田米山の魅惑」と題して、米山の人生、人となり、魅力などを取り上げ、作品を鑑賞しながらたっぷりとお話を披露してくださいました。

聴講者は、研修ツアー参加者に、近隣産経展出品者、地元の学生や米山愛好者など100人近く。米山は一升酒を飲み酔うほどに興に乗って揮毫したといわれます。その独特な文字のまとめ方や配置から生まれる書は、天衣無縫な雰囲気漂わせ、多くの真蹟が各地に残っ

ています。

一行は、午後からの贈賞式・祝賀会に参列。前日、翌日と米山碑名所、収蔵美術館を見学し、碓部焼(とべやき)体験と道後の名湯美酒に浸かり、暮れゆく今年1年を振り返りつつ、瀬戸内海の島々に来年の希望を託し帰路に就きました。



講演会に臨む三浦和尚愛媛大学名誉教授

第40回記念大作展の下見会開催

研修部 勝田晃拓

～もうすでに始まっている 皆の心の未来大作展～

猛暑衰えぬ9月18日の午後、東京・錦糸町会場前には、ひと際大きな包みを手にした集団があった。この大作研究会へは40人近くがエントリーし、その作品は、早速次々と広い正面へ大型スクリーンの如く掲げられる。

高橋照弘理事長、金丸鬼山副理事長による炯眼(けいがん)の、正鵠(せいこく)を射るアドバイスが場内に響く。ダメ出し、称賛に交じり、こだわりや質問も炸裂。下見会といっても、生半可な気持ちでは臨めない、各人の真剣な表情と意気込みが、辺りの空気を一変させた。

大作とは、ただ大きいだけではなく、未来を切り開く大いなる一步のことを指すに違いな

い。ここからどうするか? そう、失敗を恐れるなかれ! 素直に真剣でないことを恐れない。伝統に最新の粋を融合することで、さらに作品が輝いてゆくのもかもしれない。



大作に真剣に見入る参加者

第41回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は1点3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2024ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2024年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門：A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門：A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門：A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門：A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門：年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法=基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法F、G以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円
※日本国籍以外の方1点=8,000円
U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2024産経ジュニア書道
コンクール」高校生A部門出品者はU23部門
の出品料(1点)を無料とする。

※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円

【賞】 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。
【応募締切】 2024年5月7日(火) 午後3時まで指定表具店(別記)に搬入をお願いします。

【発表】 2024年8月中旬 産経新聞紙上にて。

【贈賞式】 2024年8月20日(火)明治記念館(東京都港区元赤坂)

【展覧会】 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36

会期：2024年8月14日(水)～8月21日(水)

開館時間：午前9時半～午後5時半 入場は5時まで

※19日(月)は休館

入場料：500円(心身に障害のある人と付き添いの方2人、65才以上、および学生は無料)

展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(関西、東北、瀬戸内、中部)展示エリア
以外の会友、入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第41回 産経国際書展 特別選考委員・審査員(予定)

特別選考委員／石川天瓦、今口鷺外、岩浅写心、風岡五城、齋藤香坡、高橋照弘、竹澤玉鈴、田村政晴、
原田圭泉、村越龍川、山下海堂、渡邊麗

漢字／青木錦舟、磯邊哲舟、伊藤秀泉、江原梢風、大田桂水、大庭清峰、恩田瑞貞、木村大澤、
坂本香心、鈴木曉昇、十亀紫風、長尾佳風、林龍成、平岡雄峰、村田白葉、山崎翠嵐

かな／伊藤春魁、小名雪揺、鎌田悠紀子、齊藤春欣、谷蒼涯

現代書／伊藤汀舟、遠藤香葉、小川艸岑、加柴律子、小杉秀花、小宮求茜、高頭子翠、長谷川明
扇、正川子葉、三宅秀紅、渡邊麻衣子、渡辺龍泉

篆刻・刻字／岩浅写心、高橋照弘、沈強

臨書／建部恭子、中村雪鷺、町山一祥、松井玲月、山本晴城

U23／秋葉秀厓、新井瑞鳳、笹山紅樹、関根春峰、松崎龍翠、武富明子

特別選考予備審査／今口鷺外、風岡五城、高橋照弘、竹澤玉鈴、田村政晴、原田圭泉

☆なお、特別選考委員には他に外部審査員が2、3人加わる予定です。

第41回 産経国際書展実行委員会

※任期は令和6年4月1日～令和7年3月31日

- 【実行委員長】 金丸鬼山
- 【審査部】 本部長 勝田晃拓
- 漢字部 部長 吉野富龍 副部長 本橋春景
委員 石川晴空、菅井裳雲、横溝景陽
- かな、篆刻・刻字、臨書部 部長 諸留大穹
委員 進藤栄峰、土田芳水、松岡篁月、宮川彪子
- 現代書部 部長 西川万里
委員 河口美櫻、倉賀野静、山沖春蘭、横田玉華
- 【搬出入部】 顧問 伊東玲翠
部長 永田龍石
委員 梶谷綾泉、門山玲花、神谷映水、塚原桃虹、外山錦紅、村山蛭泉、矢野春潮
- 【陳列部】 部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華
委員 阿久津由美、安蒜欣青、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木暁昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、村越弘鷹
- 【図録部】 部長 青木錦舟 副部長 岩村恵雲
委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山蛭泉
- 【東京部会】 部長 武富明子、副部長 黒田浩芳、山下翠風
委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵
- 【東北展】 顧問 田村政晴
実行委員長 松崎龍翠
事務局長 建部恭子
実行委員 小嶋カズ子、五戸光岳、末永香雅、鈴木葉光、芳賀祥緑、宮崎礼子、渡辺敦子、渡部美恵子、渡辺龍泉
- 【中部展】 顧問 村越龍川、風岡五城
実行委員長 村田白葉 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍瀨、村越弘鷹、和田玲砂
- 【関西展】 顧問 平方峰壽、今口鷺外
実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉
実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方瑋、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、加藤竹黎、柳鵬翔、山田秀園、山田娃泉、山口了世
- 【瀬戸内展】 実行委員長 大庭清峰
副実行委員長 上村陽香
実行委員 大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、藤井峯子、圓田翠泉、田中春畝、藤井玉瑛、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴

第40期 産経国際書会運営委員

- 【総務部】 担当理事長代行 坂本香心 部長 浅香秀子 委員 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子
- 【会報・広報部】 担当副理事長 高頭子翠 部長 小川艸岑
委員 影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子
- 【企画部】 担当副理事長 金丸鬼山 部長 岩村恵雲 委員 恩田瑞貞、北野香春、大久恵華
- 【研修部】 担当副理事長 勝田晃拓 部長 永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡篁月
- 【教育部(ジュニア育成)】 担当副理事長 松崎龍翠 部長 眞田朱燕 副部長 高野彩雲
委員 岡田崇花、鎌形美遊、小池雅游、今野美晃、笹山紅樹、鈴木葉光、長谷川明扇、星野葉柳
- 【渉外部】 担当副理事長 町山一祥 部長 鎌田悠紀子 部員 遠藤香葉
- 【会員増加企画(東京)】 担当理事長代行 坂本香心、渡邊麗
- 【会員増加企画(大阪)】 担当副理事長 正川子葉、松井玲月

2024産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は4,500円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

【開催要項】

会 期 2024年8月14日(水)～8月21日(水)

19日(月)は休館

午前9時30分～午後5時30分

(入場は午後5時まで)

※初日は午後1時から、最終日は午後1

時まで(入場は午後12時30分まで)

会 場 東京都美術館 2階第3・4展示室
文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、
秀作、佳作となります(中学生以下)。

贈 賞 式 2024年8月17日(土)予定
東京都美術館講堂にて

審 査 員 2024年5月に発表します。審査長は松崎
龍翠、実行委員長は眞田朱燕。

発 表 入賞者氏名は2024年8月上旬の産経新聞
紙上(予定)で発表します。

募集期間 2024年4月1日(月)～6月11日(火)
必着

搬入場所 〒134-0088
東京都江戸川区西葛西6-9-12西葛西
トーセイビル4F
(株)スタッフアルファコミュニケーション内
「産経ジュニア書道コンクール」係

【出品要項】

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

	幼 年	小学生	中学生	高校生
書 体	楷書	楷書	楷書または行書	自由
作品への名前 等の書き方	年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可	学年と姓名 学年は中1、中2、中3と入れる	名前(姓不要)の下に 書または臨と墨書
大きさ	A部門	八つ切り(縦のみ) 半切4分の1 [たて68cm×よこ18cm]		小画仙半切(縦のみ) たて135cm×よこ35cm 小画仙全紙2分の1(縦横自由) 68cm×70cm
	B部門	半紙(縦のみ) [たて33cm×よこ24cm]		半紙(縦のみ)または半切 よこ4分の1(縦横自由) 34cm×35cm
出品票	漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付 臨書は法帖名、創作は題名を備考欄に記入のこと			

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	たつ	きりん
小1	規定なし	こだま	とりかご
小2	規定なし	よい子	せみとり
小3	漢字1字以上	にわか雨	あせ光る
小4	漢字2字以上	青い大空	美しい島
小5	漢字2字以上	月と古城	星ふる夜
小6	漢字3字以上	伝統の書	無我夢中
中学	漢字4字以上	青雲大志	温厚篤実
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際 (在日外国人も可)	※金額は1点(消費税込)。高校生A(半切)部門は 軸装料含む。 (出品料は下記口座に銀行振込でお願いしま す。団体出品の場合は一括で入金して下さい。) みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名:ジュニア書道コンクール
A部門	1,000円(八つ切り)	4,500円(半切)	600円	
B部門	600円(半紙)	600円(半紙など)	600円	

作 品 返却いたしません※特別賞各賞とジュニア賞、いきいき賞、高校生の奨励賞以上は返却します。
募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902までお問合せください。
一式資料をお送りいたします。

第40回記念 産経国際書展 新春展

◆会期 令和6年1月24日(水)～2月5日(月)
1月30日(火)休館
午前10時～午後6時(最終日は午後3時まで)

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。

※1月24日(水)オープニングのテープカットを会場入り口付近にて10時30分より予定しております。

※2月5日(月)午後4時から明治記念館にて贈賞式・祝賀会を行います。



今回は、代表展179点、新春展Ⅰ196点、大作3点、新春展Ⅱ431点、合計809点を展示します。

大作の下見検討会は9月21日(木)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で、高橋照弘、坂本香心、渡邊麗、金丸鬼山の4人の先生方により行われ、岩間桃香理事(かな)、大澤玉鳳さん(現代書)、町山一祥副理事長(墨象)の出品が決まりました。

新春展Ⅱの審査は12月8日(金)、国立新美術館地下1階の審査室で、高橋照弘、勝田晃拓、武富明子、松井玲月、青木錦舟、町山一祥の6人の先生方により431点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

植西美侑、大内城翠、栗原蓮翠、後藤正子、坂本蒼榮、長瀬梅昇、西本満子、山内玉泉

〈産経新聞社賞〉

井藤恵美、伊藤律子、岡田和美、加藤貫源、手塚純子、湯川湖霖

〈奨励賞〉

池本千翠、稲葉陽萩、入江亜衣、江口鶴翠、榎本蒼、大島麗硯、大橋由美子、小倉有香子、尾作泰仙、小野田倅麗、折尾遙光、加藤木瑞嵩、川井秀扇、神戸雅史、菊地華香、菊池嵐舟、倉田友翠、佐賀七海、坂根信子、澤桃華、澤田理恵、鈴木千翠、須田由利子、須永曉聖、戸嶋香子、中曾根緑、中務敦子、中野和美、西田由美子、堀江弘昭、松山京子、森山太智、横田礼子、若宮舞奏

受賞者が
決まりました!



うちの社中を紹介します!

臨泉会

松井玲月

■創設者の略歴

○臨泉会の創設者である。父、佐々木泰南(1909～1998年)は書家を志して上京。若干20歳で師、柳田泰麓先生から開塾を許され、戦後、故郷八戸市に疎開。「泰南書道会」として出発し、若手の育成に力を注いだ。その後、東京に戻り、1973年、64歳の時、「臨泉会」を結成、再出発した。以来、上野美術館にて、2010年まで臨泉会展を開催した。その後、佐々木月花が引き継ぐ。

○他方、39歳で毎日展審査員となり、30年務めた後、辞す。

○また、独立書人団で、手島右卿先生と現代書の発展に尽力。名誉会員として引退。

○第6回産経国際書展から参加した。

■泰南の主な功績

- 「飛天」が東京国立博物館に収蔵
- 「佐々木泰南作品集」が大英博物館に収蔵
- 「霊籠」をロナルド・レーガン米大統領に贈呈(ロサンゼルスでの個展出品作)
- 米・欧州巡回展に永年団長として各国と交流。

諸外国の大使館、市長、美術館などに作品を寄贈。収蔵多数。(産経国際書会最高顧問・佐々木月花、同名誉顧問・原田圭泉も同行)

○国内でも首相をはじめ、政財界の方々と親交を深め、作品を寄贈

○勲四等瑞宝章、青森県褒章、八戸市民栄誉章

○八戸市に作品50余点寄贈。紺綬褒章受章

■現在の主な活動

○産経国際書展、新春展、産経ジュニア書道コンクール、臨泉会選抜小品展、誌上展を軸に、書の鍛錬はもちろん、泰南の教えである「書は人也」「以和為貴」、また、月花の「生涯現役、学習、青春」をモットーに、書道を通して人生を豊かに楽しくやっております。

○2023年、新八戸美術館のオープンを八戸臨泉会書展が飾った。(産経新春展出品の大作展示)

○佐々木月花 第22回産経国際書展(その時に設立された)高円宮賞の第1回受賞者。八戸市に作品40点余寄贈。紺綬褒章受章。

原田 圭泉 第33回展で内閣総理大臣賞受賞

松井 玲月 第38回展で高円宮賞受賞



錬成風景



熊坂隆光様、飯塚浩彦様、伊藤冨博様(来場いただきました)



賛助出品の小淵優子先生と(鳩居堂にて毎年6月、小品発表)



八戸臨泉会総会風景

書展 トピックス

第12回音羽書アート会展

諸留大穹

●会期 8月30日(水)～9月1日(金) ●会場 文京ギャラリーシビック

コロナ禍を抜け3年ぶりに開催となりました。子供の書展のイメージから脱皮し、大人の書展にイノベーションした結果、モノトーンの落ち着いた会場に変化を遂げました。今回は賛助に大徳寺黄梅院の住職、太玄和尚様の書も加わり、「共生」をテーマに取り組んでみました。暑さの中会場に足をお運び下さいました皆様
に心より感謝申し上げます。



墨色のビジュアル二人展

小宮求菫、小川艸岑

●会期 9月12日(火)～9月17日(日) ●会場 鳩居堂4階画廊

今回の二人展はコンセプトを「ビジュアル」としたことでハードルが上がりましたが、自由な発想のもと、何の制約もなく、2人で作品を持ち合いました。ご覧くださった方には「良いハーモニー」と好評をいただいたようです。会場では、墨象作品と墨象+仮名作品が融合して、お互いの作品を引き立て合う相乗効果をも感じ、嬉しく思いました。

松崎龍翠書作展

松崎龍翠

●会期 9月22日(金)～9月25日(月) ●会場 有楽町朝日ギャラリー

初めての個展を開催しました。3尺×10尺、3尺×6尺、2尺×8尺、全紙などを使った今までの作品と新作10点を合わせ、58点を展示致しました。期間中、ご遠路ご多用の中、予想以上に多くの皆様にご来臨を賜りました。衷心より感謝とご厚礼を申し上げます。



「墨がたり」三人展

宗像翠龍、関紫芳、本山鈴翠

●会期 9月30日(土)～10月2日(月) ●会場 ルーサイトギャラリー

連日大盛況。昭和期に活躍した歌手、市丸さんの邸宅をそのままギャラリーにした隅田川沿いにある約70年前の建物で開催。昭和の香り漂う素敵な空間に、三者三様の墨作品を散りばめ、各40点ずつ展示させていただきました。

檀の会書展

●会期 10月11日(水)～10月15日(日) ●会場 おだわら市民交流センター

北川佳昌

会員各々が自宅のどこかに作品を飾ってもらえたらと制作した書展です。幸いにも産経新聞社に後援をいただき、書会の多くの先生方にご来場賜りました。皆様が料紙の材料などに興味を示していただき、嬉しく充実した5日間でした。

及ばずながら、日本の伝統芸術である書を通して、何かの役に立てたらよいと願っております。ありがとうございました。



「書・墨・アートVol.14 渡邊麗展—書・光芒の彼方—」

渡邊麗

●会期 10月17日(火)～12月3日(日) ●会場 杉並芸術会館「座・高円寺」

毎年テーマを設け、人の在り方を求めて自作の言葉で書く。14年目の今回は、今を生きる私たちが未来へ向けて真に出来る事は何なのかを問う、言葉と向き合い対話する書作品の発表。「地球の生命体、人はこの地球上に生きる生命体のひとつ…」(82文字130×700cm)、「森…森の中に陽射しが降りそそぐ」(30文字360×260cm)、「光芒の彼方」(180×180cm)、「原点回帰」など大作を主に新作5点を展示しました。作品解説も行き、鑑賞者は熱心に耳を傾けていました。



殿村蒼園(左・母)と殿村翠蘭(右・娘)

つなぐ・書道家四代展

殿村蒼園

●会期 10月26日(木)～29日(日) ●会場 鹿沼市文化活動交流館

この度、祖父の代から続く私塾「鹿沼書道会」の70年の集大成として、郷里栃木県鹿沼市において「つなぐ展」を開催いたしました。親子4代それぞれの書作品や水墨画など、会員作品を含め150点を展示いたしました。鹿沼書道会の作品展も併催。県内外より多くの皆様にご来場いただき心より御礼申し上げます。

第55回一煌会書展

小川艸岑

●会期 10月27日(金)～29日(日) ●会場 マロニエ通り銀座館ギャラリー

55回と半世紀以上続いた会も時代と共に大きく移り変わり、今展からは会場も一新。新しい会場での試みは和やかで楽しい雰囲気との好評を得て、これからも細く長く続けてゆければとの思いです。尚、小川瓦木、佐藤青龍一と歴代会長の遺墨も展示され、感慨深い書展となりました。



第40回記念硯田社書展

橘黄華

●会期 11月7日(火)～11月12日(日) ●会場 高知市文化プラザかるぼーと

深秋の中、第40回記念硯田社書展を開催致しました。硯田社は故・中平松鶴師が「一木会」から「硯田社」と改め、昭和57年の1回展以来、40回目の書展となりました。会期中はたくさんの方々から「個性があり楽しい書展」とのお言葉や激励をいただきました。これからは会員一同、心を合わせ、古典を大切に、「平正、平明、平凡で品位ある書」を目指し、努力していきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



第40回記念CMO 書融会代表展 近畿学生席書会

正川子葉

●会期 12月2日(土)～3日(日) ●会場 藤井寺市立市民総合会館

この度、産経国際書展入賞、入選作品、産経ジュニアコンクール作品をはじめとし約700点を展示させていただきました。産経の大作と毎年恒例の次年度干支を立体化した羽子板作品、書と絵の融合作品として独自性を活かしたアート作品など、「ふれあい輝き展」にふさわしい内容で無事終了させていただきました。新たな発想の挑戦も加わり大いに盛り上がった作品展でした。これからも頑張っ参ります。



第30回記念柏葉書展

高頭子翠

●会期 12月5日(火)～12月8日(金) ●会場 柏市民ギャラリー

柏葉書道会の記念展ですので、作者たちは各々並々ならぬ思いで頑張りました。作品のラインアップは、現代書からかな、漢字などバラエティーに富んでおります。出品者全員に統一テーマ「遊」を与え、44点の出品がありました。全体としては95点ほどの力作が揃いました。



令和5年度理事会開かれる

令和5年度理事会は12月7日(木)、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。出席者は例年同様53人でした。はじめに産経新聞社の飯塚浩彦取締役会長から第40回記念展の成功について感謝の言葉がある一方、書道界を取り巻く環境は少子高齢化など厳しいものがある、だから書会の未来の発展のために新聞社は様々な事業に取り組んでいくという力強い挨拶がありました。その後、高橋照弘理事長が議長を務め、議事を進行いたしました。事務局からは、第40回展で特別展示した産経書会を創設した先達の作品を紹介する「産経国際書会の40人」展や田中鳳柳先生のコレクション「中国 明清の書画名品展」を紹介、ジュニア展の出品点数が1万2,000点を超えるなどのため、本展、ジュニア展ともに多くの入場者がつめかけた事、初めて開催した四国展では、愛媛の書家や美術家の興味を引き大いに話題を賑わした事などが報告された。また、来年4月20日から24日、上野の森美術館で開催する「未来に向かう産経国際書会―大作を中心に―」展は72人が出品を表明、最後の40回展記念行事となります。

そして、新入会(会友)が84人、昇格者が101人示されるとともに、来年度の本展審査員と本展実行委員会(案)、さらに運営委員会(案)についても発表しました。今後は、これをもとに会の運営をすすめて参ります。(事務局)

今後の展覧会などスケジュール

※変更する場合があります。

第40回記念新春展	令和6年1月24日(水)～2月5日(月) 国立新美術館 贈賞式 2月5日(月) 明治記念館 16時～
総会	令和6年4月18日(木) 大手町サンケイプラザ 14時～
未来に向かう産経国際書会 ― 大作を中心に ―	令和6年4月20日(土)～4月24日(水) 上野の森美術館
第41回本展締切	令和6年5月7日(火)
第41回本展審査会	令和6年5月28日(火)～5月31日(金) 東京都立産業貿易センター台東館
2024ジュニア展締切	令和6年6月11日(火)
2024ジュニア展審査会	令和6年6月24日(月) 東京都美術館(予定) ※25、26日は、審査後作品整理
第41回本展 2024ジュニア展	令和6年8月14日(水)～8月21日(水) 東京都美術館 9時半～17時半 19日は休館。14日は13時から、21日は13時まで。
2024ジュニア展贈賞式	令和6年8月17日(土) 東京都美術館講堂(予定)
第41回本展贈賞式	令和6年8月20日(火) 明治記念館
第41回関西展	令和6年9月4日(水)～9月8日(日) 京都市京セラ美術館 贈賞式 9月8日(日) リーガロイヤルホテル京都 12時半～
第41回東北展	令和6年9月13日(金)～9月18日(水) せんだいメディアテーク 贈賞式 9月15日(日) ホテルメトロポリタン仙台 15時～
第41回瀬戸内展	令和6年9月24日(火)～9月29日(日) 広島県立美術館 贈賞式 9月28日(土) 広島ガーデンパレス 14時～
第41回中部展	令和6年11月6日(水)～11月10日(日) 愛知県美術館ギャラリー 贈賞式 11月10日(日) ホテルメルパルク名古屋 12時～(予定)
理事会	令和6年12月5日(木) 大手町サンケイプラザ 14時～(予定)

誰何 (SUIKA) TV<この指とまれほんまモン>に出演

産経国際書会の正川子葉副理事長が自身の社中・書融会40周年を記念して大阪のYouTube「誰何(SUIKA)TV」で自身の社中でのイベントや第40回記念関西展の様子を紹介しています。是非ご覧ください。(2023年10月31日配信)



他にも、正川副理事長が企画出演の「阪神淡路大震災慰霊碑建立記念全国写経奉納祭」



「書家・産経国際書会副理事長正川子葉の世界(波乱万丈伝)」があります。興味のある方はクリックオン!



事務局に高橋天地記者が着任

令和5年11月より産経国際書会事務局に着任しました。よろしくお願致します。記者28年目。大半をエンタメ取材と新規事業の構築(デジタルサイネージ、YouTubeなど動画コンテンツ作り、EX、SEO対策)に注力してきました。書会とのご縁では、UAEのシャルジャ首長国で「世界の書の祭典」の取材も経験。感謝に堪えません。折しも昨年3月に大学院を卒業。経営や事業構築を学んだところ、今、目の前には書会の事業がいっぱい。皆さんに教を請い、一人前になれるよう頑張ります。



チュニアのアーティスト、ザロウキ・ゾラさんとシャルジャで

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和6年1月～4月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第40回雅涎会書展	1月6日(土)～1月11日(木)	有楽町朝日ギャラリー	雅涎会	宮負丁香
第18回埼玉県書作家協会	1月12日(金)～1月14日(日)	所沢市民文化センターミュージズ	埼玉県書作家連盟	谷 蒼涯
第42回埼玉県中央書道展	1月19日(金)～1月24日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	細瀨柳青
第11回鎌田悠紀子書展(ぬくもりの書を求めて)	1月20日(土)～1月29日(月)	京王プラザホテル1Fロビー、B1ギャラリー	秋桜会	鎌田悠紀子
尚友会70周年記念書展	1月25日(木)～1月29日(月)	プラサヴェルデ「キラメッセぬまづ」市民ギャラリー	尚友会	小杉修史
第87回龍峽書道会	2月6日(火)～2月11日(日)	東京都美術館	龍峽書道会	林 龍成
第39回景雲社「絆」書道展	2月12日(月・祝)～2月18日(日)	クリエート浜松 ギャラリー-35	景雲社	勝田晃拓
第42回全国公募・学生部併催煌心展	2月14日(水)～2月18日(日)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第35回記念書成会書展	2月15日(木)～2月18日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
泉の会第22回新春展	2月20日(火)～2月25日(日)	四街道市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
2024菽水書人社展	2月29日(木)～3月3日(日)	銀座かねまつホール	菽水書人社	林 清方
青木錦舟個展	3月10日(日)～3月16日(土)	東京交通会館ゴールドサロン	書道研究海游舎	青木錦舟
第40回青のコアメントールぼくりん	3月12日(火)～3月17日(日)	銀座鳩居堂画廊3F	墨林書道院	遠藤乾翠
第52回八戸臨泉会書展、第75回八戸臨泉会学生書道展	3月29日(金)～3月31日(日)	八戸市美術館	臨泉会	原田圭泉
「誠心社現代書小作品展 一國井誠海一門創立78周年」現代書の心を謳った公募展	4月20日(土)～4月24日(水)	上野の森美術館ギャラリー	誠心社	渡邊 麗

「産経国際書展」ポスター題字の募集

産経新聞社と産経国際書会は、昨年に続き今年1年間、第41回展のポスターや招待はがき、宣伝媒体などに使用する題字「産経国際書展」を募集します。

提出物 半切4分の1(68×18cm)の紙に縦に「産経国際書展」と墨文字で揮毫

募集期間 2024年1月20日～2月28日

応募資格 会友以上の産経国際書会会員なら誰でも可

応募料 無料、何点でも応募可

応募方法 作品と連絡先(住所、氏名、電話、FAX、メールなど)を明記したものを同封して下記応募先までお送りください。

選考 産経新聞社事業本部長、産経国際書会理事長、ポスターデザイナーほか

採用謝礼 5万円

使用期間 1年間(2024年4月～2025年3月)

使用権など 産経新聞社・産経国際書会に帰属。また、デザイン上、採用した文字を横書きにしたり、拡大、縮小、彩色、補色する場合があります。

結果通知 題字の採用者のみに連絡(2024年3月中旬以降)

応募先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会

問い合わせ TEL: 03-3275-8902 FAX: 03-3275-8974 e-mail:shokai@sankei.co.jp



追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

会友 松崎翠麗(令和5年8月)

編集後記

令和6年の幕開けを迎えました。今年が実り多き年になりますようお願いしております。昨年は「産経国際書展」が第40回展を迎え、その長い歴史を踏まえた意義深い関連行事が特別企画として執り行われました。

まずは昨年8月、東京都美術館(東京都台東区)で「第40回記念産経国際書展」の会場内で開催された2つの特別展でしょう。「産経国際書会40年—そのはじまりと歩み—」と、故・田中鳳柳先生(同会最高顧問)の貴重なコレクション「中国 明・清の書画名品展」は、大勢の来場者に深い感銘を与えました。

また、「第40回記念産経国際書展」の作品数が増加したこと、特に併催された「2023ジュニア書道コンクール」の出品数が大幅に増加したことは、大変嬉しく、これもひとえに産経国際書会会員の皆様の熱い結束力の賜であり、心より感謝申し上げます。

さらに、地方展である東北展、瀬戸内展、中部展、関西展が無事に終了できましたことも感謝に堪えません。実行委員の先生方、本当にお疲れ様でした。

記念事業として初めて「第40回記念産経国際書展四国展」が愛媛県美術館で開催されたことにも言及しなければなりません。四国の先生方の総力を結集した書展で、大勢の方々が足を運びました。

尚、今年4月20日(土)～24日(水)まで「未来に向かう産経国際書会—大作を中心に—」展が開催され、70点ほどの力作が出品されます。見ごたえのある展覧会になるものと心より期待しております。

(高頭子翠)

(会報編集委員/高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和6年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

http://sankei-shokai.jp/

https://www.facebook.com/sankeishokai



産経国際書会
HPはこちらから

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにご願ひ致します。